

新しい地方経済・生活環境創生交付金事業評価シート

		担当課名	建設産業課	事業No.	2
事業名	社会・経済状況の変化に適応する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略【第2世代交付金】				
目的	県と農林水産物の6次産業化や輸出振興に取り組む市町村、産学金で設立した「とくしま六次産業化推進連携協議会」を核として、6次化商品の開発、販路開拓を図る。				
実施内容	協議会において次の事業を実施。 1)新規・小規模事業者への伴走支援 2)展示商談会への出展の支援 3)6次産業化・農商工連携の推進と情報発信 4)商品開発及び商品改良の支援				
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	目 標		実績	
	新規就農者数（累計）	6人（2015-2019） → 8人（2020-2025）		8人（2020-2025）	
	町内のすくもの製造量	1,400kg（2019） → 3,700kg（2025）		1,960kg（2025）	
	学校給食の 地元産食材使用割合	44.0%（2018） → 50.0%（2025）		32.6%（2025）	
達成度	A：達成 B：概ね達成 ③ 未達成				

【事業費と財源内訳】

（単位：円）

2025年度	計画額	実績額	交付金充当額	備 考
事業費	800,000	800,000	400,000	事業費の1/2

【2025年度の取組と課題】

とくしま六次産業化推進連携協議会が実施する新規・小規模事業者への伴走支援を、次の事業者が利用した。

- ・6次産業化個別相談会及び商談対策事前セミナー：濱くんちのお野菜（濱貴仁氏）
- ・6次化商品のPR（県内小売店舗での展示販売）：辰巳屋食品株式会社

また、同協議会の「異業種等と連携した商品開発支援事業」を活用し、藍住町の農家である濱貴仁氏（屋号：濱くんちのお野菜）が生産する野菜を原材料とする既存商品（野菜のポタージュ）の改良を行った。製造工程の見直しを行い、より滑らかな舌ざわりになるように改良した。また、パッケージラベルと販促用パンフレットについて、専門家のアドバイスを受け、より消費者の目を引くデザインへ刷新した。改良後は道の駅での販売や、ふるさと納税の返礼品として提供し、規格外の野菜の有効活用により食品ロスの削減と経営改善が図られ、6次産業化の拡大に寄与したと考えている。

今後は、事業計画や販売戦略を強化し、安定した収益を確保していくことができる体制を整えることが課題となっている。

【今後の取組】

とくしま六次産業化推進連携協議会が2026年度で解散することとなっており、2027年度以降は、徳島県の事業として、6次産業化支援の体制が新たに構築される予定である。本町も、新たな体制の内容を精査し、有効な事業を積極的に活用することで、引き続き町内の6次産業化の推進を図る。

※藍住町総合計画・総合戦略推進委員会の意見

・新規就農者数だけでなく、廃業した農家の数についても把握したい。新規就農の人数と廃業の人数を合わせて示すことで、農業分野の動向がより分かりやすくなる考える。
 ・実績の32%という数値は目標値に未達であるものの、まあまあいい方であると捉えている。現状の厳しい状況を踏まえると、50%という目標設定自体がやや高いのではないかと考える。